平成22年度　学校評価書　（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標 めざす生徒像	1知性と感性を磨き、健康な身体と健全な精神を身につけた自立した人間を育てる。 2自主性と創造性を培い、自己探求に向けた実践力のある人間を育てる。 3「農」の学習を通して「いのち」の観光の大切さを学び、心豊かな人間を育てる。 4地域社会との「かかわり」を通して、社会の発展に貢献できる人間を育てる。

具体的目標重点目標	1学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成 2豊かな感性と表現活動の充実推進と部活動の活発化 3社会の一員としての生き方を学させる生活指導と安全指導の充実・徹底 4開かれた学校づくりの推進と地域との連携強化 5校舎内外の環境整備と適正で能率的な学校運営の推進

達成度		
	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

自己評価

番号	評価目標	具体的方策と指標・基準等	目標の達成状況、達成にむけた取り組み状況と分析	達成度	成果と課題　次年度に向けた改善策
1	生徒が満足できるような教育課程の編成を目指す。	教科担当者会議の学期1回開催 成績不良者への早急な対応と全員進級 自習時間0を目指す 授業評価を年2回実施	1学年のみの実施となった。 TTの実施により指導が行き届き易くなった。 授業振替を積極的に行い、自習時間を半減することができた。 授業評価は年1回であったが、新教育課程の編成をほぼ完成することができた。	B	○TT授業の効果・利用法の再検討が必要である。 ○今後も行事の精選を推進する必要がある。 ○成績表・電子ファイルの整理統合等。
2	基本的生活習慣を確立し、部活動の活性化を図り、元気ある学校を目指す。	問題行動未然防止に努め、特別指導延べ15名以内を目指す 交通事故0を目指す 部活動の活性化に取り組み、団体3種目以上、個人5名以上東北大会出場、1種目以上全国大会出場を目指す 生徒会の活発化を支援し、ほぼ全員が学校行事へ参加し、成功させる	ポスターや情報等の掲示や発行を通して、生徒の問題行動の未然防止に努めたが、延べ人数が昨年度より大幅に増え 交通安全委員会活動や研修会や講話等を通して、生徒の意識高揚の図った。重大事故は無かったが、今後も注意喚起が必要である。 部活動への全員加入や外部コーチ等を積極的に活用した。 創立駅伝大会・校内レクレーション大会・庄農祭・球技大会等を実施した。	B	○臨時集会やアンケートの実施による規範意識の育成と生徒理解の深化。 ○冬期間に雪上自転車通学する生徒への指導の強化。 ○鍵付きロッカーの設置による盗難防止策の実施 ○幽霊部員解消対策の検討
3	「みずほ」プロジェクトによる生徒全員の進路希望実現を目指す。	進学者に3年間を通した進学指導に努め、大学進学者5名、大学校5名合格を目指す 一年生は自己理解を深めるため、3人以上の職員と個別面談を行う 二年生は、キャリア教育を推進し、職場見学や学校見学を1回以上実施する 三年生は、就職内定率１００％を目指す	学科との連携を図り、進路講習会を実施した。（県立農業大学校5名、東京農大2名、酪農学園1名、東京農短大1名、鯉渕学園1名　計１０名） キャリアノートを活用し、継続的なキャリア教育を実践した。 総合的な学習の時間やインターンシップでキャリアノートを活用して、日常的にキャリア教育の推進を図った。 職業安定所・行政機関等との連携を密にして、企業開拓・訪問を積極的に実施した。	B	○進路体験報告会等の計画的・継続的な指導の在り方の検討。 ○全職員による計画的な進路指導の具体的な検討。 ○キャリア教育の見直し。
4	農業高校として地域に開かれた学校作りに努める。	スクールパークの充実（校内非緑地地域の整備 農業大学校、山大農学部との連携を強化する 各種資格検定の合格率アップを目指す 生産物販売・公開講座・出前授業・地域連携活動を積極的に実践する	ベンチ製作や樹木の植栽、芝草の育苗・張り付けに取り組ん 農業大学校との連携については、農業簿記の分野で連携でき 農業科学基礎及び環境科学基礎や毎学科毎の主選択農業科目で指導した。 地域の要請に応えながら、質の高い生産物を提供することができた。	B	○新教育課程における新科目の授業計画についての検討。 ○来年度も学校周辺の環境緑化の推進。 ○地域のイベント参加の精選。

学校関係者評価

意見・要望・評価等
○上級学校とのカリキュラム上の連携を深化すべきである。 ○進学者対象のカリキュラム上の対策の検討。 ○食育、食品に突っ込んだ食品科もあったいいのではないか。
○地域の中学校と比較すると駅での挨拶など少ないようである。 ○個性化重視の教育でいいのではないか。 ○基本的生活習慣等は、社会に生徒がまじわれば自然と治る。
○面接について、はきはきと答えられるようにして欲しい。 ○就職、進学に関しては1年生の夏から学校での取り組みを実践すべきだ ○社会のニーズに合っているものを学校自信が学ぶ必要がある。 ○就職なら就職に特化すべきである ○就農と同時に数十ヘクタールの経営も想定した教育をして頂きたい ○農業高校でも高度な専門的な内容をどんどんやるべきである。

自己評価および学校関係者評価の改善点、他	○新教育課程の実施に伴う自己評価内容の具体的な項目毎の再検討が今後必要である。 ○第三者評価を意識した学校関係者評価の在り方について検討の必要がある。

総　括

①「エコロジカルハイスクール」宣言をし、全教職員の融和と協調の下、一致協力して特色と活力のある農業高校づくりに努めた。
②学習意欲を喚起する指導方法の工夫改善、シラバスを作成し学習指導の推進、生徒職員への授業評価等に努めたが、授業改善にはまだ改善の余地がある。
③今年度は、1月に教員評価のための公開授業週間を設定した。教員評価としては、効果的なものとなったが、教員相互の指導力向上に向けた共通理解に課題が残った。
④校訓「行学一如」、学校創立記念日、3つの校是、生徒会・農業クラブのスローガンを柱として、地域に信頼され、活力ある学校作りに取り組んだ。
⑤今年度は通常のインターンシップに加えて担い手事業の一環として、長期インターンシップ（デュアルシステム）を実践し、先進農業を体験できたことは、将来就農を視野に入れた進学希望者の生徒達にとって大変効果的であった。
⑥「学校通信みずほ」やホームページで地域の小学校・中学校・高等学校・関係機関に本校の活動について知ってもらうことができた。
⑦今年度も生徒・保護者・教職員・学校評議員・学校関係者評価委員に学校評価を実施した。多くの方々から学校への期待と要望等生の声を聞くことができた。また、2月中旬に今年度で2回目になる学校関係者評価委員会を予定通り開催することができた。
⑧今年度は教員評価のための公開授業を１１月に実施した。今後は、「公開日」や「公開週間」を年間計画に設定し、地域の方々にも公開していきたい。
⑨教員評価については、面談を通して多くの教職員と相互理解のためのコミュニケーションをもつことができ、信頼関係の構築と職場環境の改善に大変効果的であった。